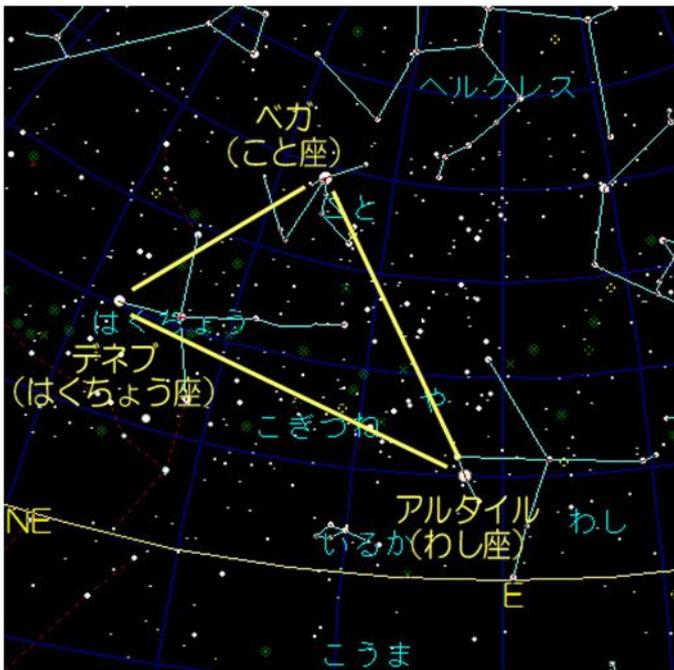


「3つの大三角(3)」～夏の大三角～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

春の大三角を撮影したあと、明け方までがんばっていると(または一旦寝て、再度観測に出かけると)、東の空から「夏の大三角」が姿を現す。これで、一晩で「冬・春・夏」の3つの大三角を観測できたことになる。

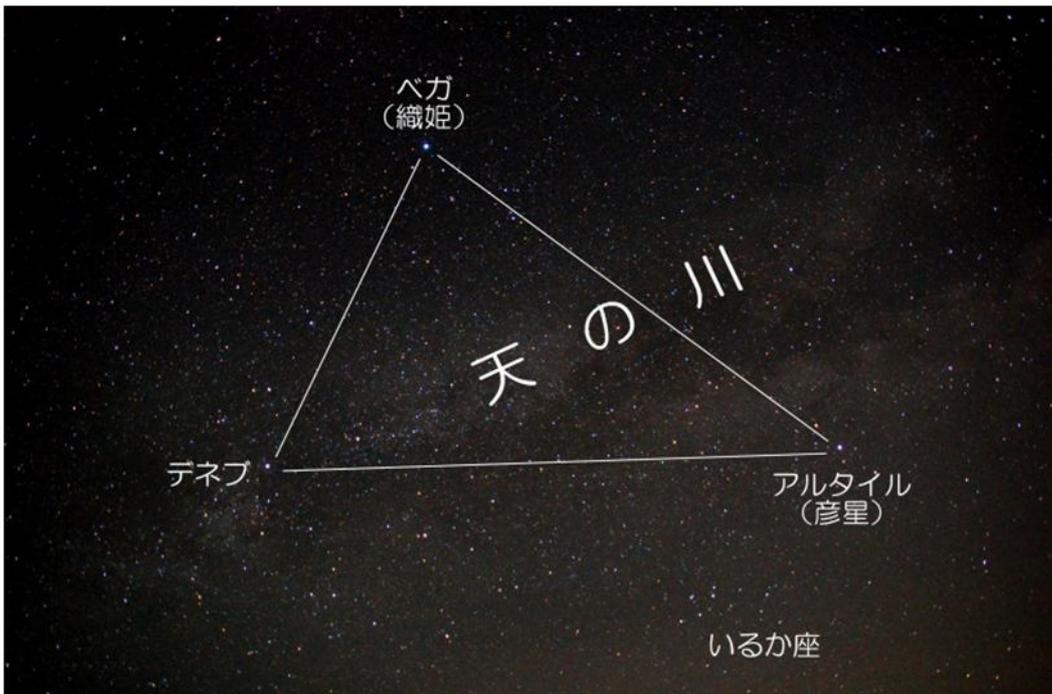


2015, -3, 22 午前4時の星図 The Sky で計算
東の空から夏の大三角と天の川が昇ってくる。

「夏の大三角」は、3つの大三角の中でも、一番華やかな存在だ。何といても、天の川を伴っていることがすばらしい。その天の川の両岸にあるのが、アルタイル(彦星)とベガ(織姫)だ。七夕伝説に登場するこの二つの星は、決して7月7日にだけ姿を現すわけではなく、早春の夜空でも見えるわけだ。

白鳥座は天の川の中に首をつっこむ形で飛んでいる。「北十字」とも呼ばれる通り、北極星に比較的近いので、かなりの時間を天球上に留まっている。白鳥座もこと座も、北極圏では一年中沈まない「周極星」になる。

更に夏の大三角を豪華に引き立てているのが、小さな(しかし美しい)星座の存在だ。一つは「いるか座」。四等星ばかりの小さな星座だが、アルタイルの左下で、しっかり存在感を示している。もう一つは「や座」。「矢座」の意味である。こちらは、小さいながらも「夏の大三角」の二等辺三角形内にしっかり収まっている。4つの恒星が「矢」の形を作っている。いずれも小さいながらも美しい。(次のページに写真あり)



まだまだ寒い早春の高原で、私は夏の星座をいつまでも眺めていた。そのうち東が白んできて、朝になってきた。

「夏の大三角と天の川」

2015, -3, 22 午前4時

北軽井沢

タカハシP2 赤道儀

撮影; C. Tanaka

